

リーディングスキルテストの視点に基づく授業改善3 ～研究校の実践に基づいた授業メソッド～

汎用的な基礎的読解力を測定するリーディングスキルテスト（RST）は、人間の読解プロセスである6つの視点（①係り受け解析②照応解決③同義文判定④推論⑤イメージ同定⑥具体例同定）から作成されている。市内のRS研究校では、この6つの視点を取り入れた授業改善に取り組んでいる。

導入 ～本時の問題（課題）を正しくつかめるようにするために～

- 教師が提示した問題文（課題）を正しく読んでいるか確かめる。（①～⑥の視点全てに関わる）
- 問題文や目標等を子供たちに視写させる際は、教師が何を書くのかを口頭で伝えてから板書し、教師と共に書き終える。（共書きをする）（①～⑥の視点全てに関わる）
- 問題（課題）から授業で何を学習すればよいのかを子供たちに問う。（⑥具体例同定）

指導のPoint

- 「この言葉の意味はわかりますか（どんな意味でしょうか）」と問う。
特に教科内容以外の**一般的な言葉**にも留意する。
【令和元年度 戸田市教育研究集録p4-5参照】
- 「今日の授業では、どんなことを学習するとよいでしょうか」と問う。
問題（課題）を正しく解釈できるようにするとともに、本時の**ゴールイメージ**の共有へつなげる。



展開 ～子供たちの理解を深めるために～

- 文章に書かれていない主語や述語を補う。（主語や述語を問う場合もある）（①係り受け解析）
- 指示代名詞（それ、これなど）が示す言葉を明確にする。（②照応解決）
- 根拠に基づき考えを发表或し、グラフや表等から事実を読み解いたりする活動を行う。（④推論）
- 文章で書かれていることを絵や図等で表現する活動を取り入れる。（⑤イメージ同定）
- 理解が曖昧な言葉は、教科書や辞書等を使って調べるようにする。（③同義文判定・⑥具体例同定）

指導のPoint

- 教師が教科書をよく読み、事前に子供たちが読みつまずきそうな所や定義文（例：～とは…である）等を把握しておく。
- 図やグラフ等を必要に応じて関連付けながら学習できるよう事前に準備しておく。（具体の世界と抽象の世界とをつなげることが大切）



終末 ～授業を振り返ることができるようにするために～

- 今日学んだことから「わかったこと」「わからないこと」「次回考えたいこと」「よかった友達の考え」などについて、子供たちが振り返る場面をつくる。（①～⑥全てに関わる）
- 新しく学んだ用語を使って、文章を書く場面をつくる。（⑥具体例同定）

指導のPoint

- ただ漠然と「今日の学習を振り返りましょう」と指示せず、教師が視点を示してから振り返らせる。また、子供たちが板書やタブレット等をもとに振り返ることができるよう、学習のあしあとを残していく。



過去の
関連資料等



R01
RSTの視点
に基づく
授業改善2



H31
RSTの視点
に基づく
授業改善1



教育のための
科学研究所
HP